

広陵高校の先輩 **さ は つ し** 浜崎 左髪子 の特別展が行われます

芸術の秋、10月17日～12月3日の日程で、西区の泉美術館において、旧制広陵中学校の卒業生である、浜崎左髪子の特別展が行われます。本校は、所有する5点の絵画を貸し出しましたが、それらも含め約150点の作品が展示されるそうです。泉美術館さまのご厚意で、招待券をいただいておりますので、興味を持った人はぜひ足を運んでください。



●本校との関わりについて

校誌「広陵」の第十号に「大先輩紹介『浜崎左髪子』』という記事があります。それによると、左髪子さんは生前、広陵のことを自慢して、その思い出をいつも周りの人々に話しておられたそうです。今回貸し出しをした絵画5点は、左髪子さんの死後に、ご遺族から本校へ寄贈いただいたものだそうです。

「宮島」	深い緑で大きく巖島と瀬戸内海を描き、左下に小さく鳥居が描かれています。
「廃船」	廃船のまわりに数人の人影。現在の南区丹那の海岸の風景だそうです。
「原爆ドーム」	赤い線を中心に、原爆ドームを描いた激しい作品。
「睡蓮」	葉の配置がリズム感を生む、落ち着いた作品。
「バラ」	薔薇のはなやかさ、やさしさが、構図や色彩の基調となっている大作。

●「左髪子」という画号について

「左髪子」は画号（日本画家としての名前）で、本名は**浜崎 稔明(としあき)**です。
「左髪子」とは、漢詩では「**なにごともしやり遂げる人間**」という意味を持つことばだそうです。

●年表

1912（明治45）年	ハワイ島の東海岸の都市、ヒロ（Hilo）市に生まれる
1931（昭和6）年	旧制広陵中学校を卒業 在学中は美術部で活躍
1939（昭和14）年 1944（昭和19）年	第二次世界大戦中、二度出兵し、中国戦線に赴く
1946（昭和21）年	中国から帰国 戦後は日本美術院展や新協美術展、日本表現派展などに大作を発表するとともに、広島県美術展の審査員を第一回展から務める 広島の地元企業や料亭などのトータルデザイン、民話などをモチーフとした小型絵馬の制作、陶器の絵付け、エッセイ執筆などを幅広く手がけ、マルチクリエイターとしてその才能をいかんなく発揮
1989（平成元）年	脳血栓のため死去（享年77歳）

●広島になじみの深い活動と、反骨の精神

泉美術館のパンフレットに「人間社会の不条理をテーマとした大作、数多く書かれた世評などからは、**画家としての鋭い観察眼と反骨精神がうかがえます。**」とありますが、前述の校誌「広陵」の「権勢にへつらわず、富裕を意とせず、虚栄に対しては、**はげしい反骨の士であった。**」との記述と一致します。

活動のフィールドは絵画だけでなく、新聞の挿絵、広島に題材を採った絵馬の作製、コラムの執筆と、広島市民になじみ深いものであったようです。商業デザインも手掛け、皆さんも一度は目にしたことがある「平安堂梅坪」「浜本工芸」などのロゴは、左髪子さんの手によるものだそうです。

広陵生の皆さんに、先輩の幅広い作品を楽しんでもらうとともに、「反骨の精神」を感じてほしいと思います。



在りし日の浜崎左髪子さん
『浜崎左髪子 画集』
（平成7年刊）より